



TITLE:

対馬浅茅湾で初めて発見されたエ
チゼンクラゲ(刺胞動物門, 鉢虫綱)

AUTHOR(S):

久保田, 信; 中村, 鐵彦; 安田, 徹

CITATION:

久保田, 信 ...[et al]. 対馬浅茅湾で初めて発見されたエチゼンクラゲ(刺
胞動物門, 鉢虫綱). 南紀生物 1996, 38(1): 55-56

ISSUE DATE:

1996-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/188253>

RIGHT:

© 南紀生物同好会

南紀生物, 38(1): 55-56, 1996

対馬浅茅湾で初めて発見されたエチゼンクラゲ (刺胞動物門, 鉢虫綱)

久保田 信*・中村鐵彦**・安田 徹***

Shin KUBOTA, Tetsuhiko NAKAMURA and Toru YASUDA: First record of a schyphomedusa, *Stomolophus nomurai* (KISHINOUE) (Cnidaria; Schyphozoa) found in Asou Bay, Tsushima Island, Nagasaki Prefecture, Japan

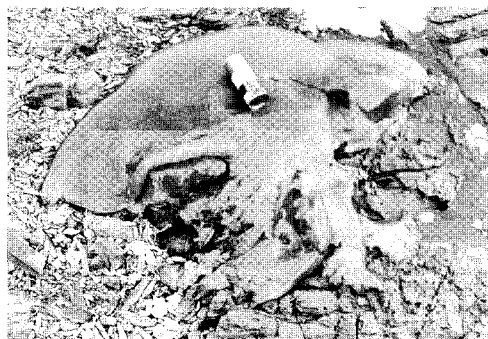
エチゼンクラゲ *Stomolophus nomurai* (KISHINOUE, 1922) は、大型の鉢クラゲで、わが国でみられるクラゲ類の中で最大の種であり、稀に傘径 2 m、重量 150 kg 以上に達する。本種が、日本沿岸を生息地として一生を送っているかどうかは不明であるが、漁業に被害を与えるほどの大多数の大型個体の出現、すなわち大発生あるいは異常発生が、日本海で、今世紀に二度生じている(下村, 1959; 西村, 1959, 1961)。その集団が津軽海峡を越えて東北地方の太平洋沿岸へ移動することはあっても、わが国の太平洋側から始まる大発生は知られておらず、また、南日本全域の黒潮の影響の及ぶ海域での採集記録もない(下村, 1959; UCHIDA, 1954)。本種の発生地あるいは供給源は、黄海、東シナ海あるいは朝鮮半島南西部であるといった推定があり(下村, 1959; 西村, 1961)、そうであれば、いずれの場合でも、わが国での出現は対馬暖流に乗った無効分散に終わっている可能性が高い。なお、中国の山東海区と黄海・渤海海区では、ビゼンクラゲ *Rhopilema esculenta* KISHINOUE に混じって本種が少量ではあるが食用に漁獲されている(大森, 1981)。

巨大なエチゼンクラゲが、1995年の後半に、実に37年ぶりに日本海で大発生したというニュースは耳新しい。その出現状況は安田(1995)によりまとめられた。それによると、9月下旬の中国地方での出現に始まり、11月上旬には北陸地方、次いで11月中・下旬には東北地方の日本海沿岸で出現するといったように北上の記録が得られている。

ところが、このような推移とは逆行して、同年の12月初旬に、長崎県対馬沿岸で、エチゼンクラゲの大型個体が筆者らの一人、中村により発見されて写真撮影された(図1)。これは、生物学的知見の少ないエチゼンクラゲの分布と成長に関する貴重な知見であるので、断片的ではあるが今後の参考資料として報告する。

発見場所	長崎県対馬浅茅湾鳥取浦の岩礁海岸に打ち上げ
確認個体数	1 個体
傘径	約 80 cm、傘にひどい損傷なし
肩板・口腕	ともに明瞭だが、糸状付属器と触手が脱落
色	傘は半透明の淡褐色、肩板と口腕は遊離端部のみ褐色でその他は半透明、肩板の糸状付属器の基部はチョコレート色

本種は、前回の1958年の大発生時には、対馬海峡では8月上旬から11月上旬までみられ、佐賀県と福岡県では9月上旬から11月中旬まで出現した記録がある(下村, 1959)。したがって、今回の発見は、この海域で出現時期が1ヶ月延長した記録であるとともに日本最西端の記録でもある。しかし、9月から12月上旬に黄海や東シナ海では大量のエチゼンクラゲが出現する(下村, 1959)ので、この個体はこれらの海域から移動してきたもので、対馬近海で成長したものではないのかもしれない。あるいは、本種の個体群の一部が、時計回りの環流域である玄海灘(下村, 1959)で、その流れにのって成長したとすれば、今回のような遅い出現も理解できる。今回記録された個体は、その大きさからみて十分に成長したもの



発見日 1995年12月3日

図1 対馬、鳥取浦へ打ち上げられたエチゼンクラゲ

* 京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所 (〒649-22 和歌山県西牟婁郡白浜町)

** 対馬釣道場釣研丸 (〒817-05 長崎県下県郡美津島町大字竹敷)

*** 福井県栽培漁業センター (〒917 福井県小浜市堅海50-1)

56

で、成熟していると思われる。有性生殖の後、冬季の水
温低下という不適条件により衰弱、弊死して海岸に打ち
上げられたのであろう。

参 考 文 献

- 西村三郎. 1959 : エチゼンクラゲの大発生. 採集と飼育,
21, 194-196, 202.
- . 1961 : エチゼンクラゲの大発生 : 補遺. 採集
と飼育, 23, 194-197.
- 大森 信. 1981 : 食用クラゲの生物学と漁業 (総説).
日本プランクトン学会報, 28(1), 1-11.
- 下村敏正. 1959 : 1958年秋, 対馬暖流系におけるエチゼ
ンクラゲの大発生について. 日水研研報, 7, 85-107.
- UCHIDA, T. 1954: Distribution of scyphomedusae in
Japanese and its adjacent waters. J. Fac. Sci., Hok-
kaido Univ., Ser. 6, Zool., 12(1-2), 209-219.
- 安田 徹. 1995 : 再びエチゼンクラゲの大発生. うみう
し通信, 9, 6-8.

南 紀 生 物

第38巻 第1号 別 刷

Reprinted from
NANKISEIBUTU : The Nanki Biological Society
Vol. 38, No. 1
May. 1996